



学校だより

学校教育目標

ふるさとの魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第 20 号

令和 3 年 1 月 12 日発行
文責 校長 宮地 浩幸

新年明けましておめでとうございます。

いよいよ令和 3 年の新春を迎え、本年度最終学期がスタートしました。旧年中は、保護者、地域の皆様には、本校教育活動に多大なご尽力をいただき感謝申し上げます。本年も、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、冬季休業中の子ども達の家庭や地域での様子はいかがだったでしょうか？今、首都圏では新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、緊急事態宣言が再発令されました。首都圏に比べれば、地方での感染の状況はまだ少ないようですが、いつ爆発的な増加が見られてもおかしくない状況です。島部の方も決して安心することなく、平時の学校生活が持続できるよう健康管理には十分気を付けていかなければならないと思っています。そのためには、今後も感染症対策のための手洗い、うがい、マスク着用などは怠ることなく、十分な栄養、睡眠、適度な運動と規則正しい生活を心掛けてください。また体調の異変を感じた時には、素早い対応をお願いします。



3 学期は、期間も短くあっという間に過ぎてしまいます。特に受験を控えている児童生徒にとっては、自己の将来を左右するかもしれない真剣勝負に挑むために、緊張感で時間の足りなさを感じるころだと思います。決して、慌てることなく、日頃の実力を十分発揮できるよう計画的な調整を期待したいところです。受験に関係無い児童生徒も進級を見通し、これまでを反省して、不十分な部分の克服を心掛けて欲しいと思います。特に、学習面での基礎基本に関するところは、確実に身に付けて、次の学年へ進んでいってほしいと思います。昨年末の学校だよりも記載しましたが、子ども達の学力や運動実績は数値に現れ確実に伸びています。そのようなことを踏まえて次のようなことを始業式で子ども達に話しました。

【始業式での校長の話】

おはようございます。そして、新年明けましておめでとうございます。

冬休み中、事故もなく、こうして皆さんと再会できたことを嬉しく思います。

1 週間ほど前、新しい年、2021年・令和3年を迎えました。

「1年の計は元旦にあり」と言います。計とは計画のことであり、自分の「目標、決意、抱負」などが含まれます。皆さんには、今年成し遂げたい目標はありますか？2 学期の終業式にもお話したように 3 学期は



皆さんには、今年成し遂げたい目標はありますか？2 学期の終業式にもお話したように 3 学期は

次年度の自分を想定し、それに向けての準備を全力で完結させなければなりません。

昨年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染症拡大防止の観点から、本年に延期されました。今年は、ワクチンの接種も外国では始まりましたので、無事に開催されることを願っています。それでも、首都圏では、感染拡大が否めません。そのことについては、今後も継続した予防が必要です。さて、新型コロナウイルスの発生を受けて、教訓となるべきことも見えます。それはどのようなことが起ころうとも万全の準備は怠ってはならないということです。新型コロナウイルスは私たちに予期せぬ生活の変化を余儀なくさせました。未知のウイルスとの戦いでなかなか先が見通せないようですが、それでも日本は世界の国々と比べて格段に感染の状況を抑え込んでいます。それは、経験的に分かったことからできるだけ先を見通し、準備をする姿勢をしっかりと示しているからだと思います。計画をしても何があるかわからないので、そうならない場合でも、自分にできる万全の準備が必要であるということです。3学期は一番短い学期です。次年度に向けて万全を尽くせる学期になることを願っています。健康に留意して、さらなる活躍・飛躍ができるよう大いに期待して3学期始業式の挨拶とします。今年もよろしくお願いいたします。

島の人の温かさ



1月7日は暴風雪警報が出されており、加唐丸は欠航になるほどの荒天で寒冷な状況でした。その朝、職員住宅から、学校へ出勤するとき、あまりの寒さと風の強さでスポーツ用のグランドコートのスーツの上から着込み、体を縮めるようにして、歩いていました。島の自然環境の厳しさを痛感し、心が折れそうになっていました。そんな中で、防寒着を着た女性の方に会いました。挨拶をすると笑顔で「寒いですね。」と話しかけてくださいました。その優しい笑顔でたまらなく心を温かくしていただきました。島の方にまさに元気をもらったのです。島の方々はどこでも笑顔で挨拶をしていただけます。加唐丸の待合所や船の中でも気軽に話しかけてくださいます。温かい島の方々への心遣いに感謝するところです。

大雪を考える

1月7日(木)くらいから、佐賀県にも数年に1度と言われるような寒波がやってきました。1月8日(金)、1月9日(土)の朝は、一面銀世界。数日にわたり雪も完全に解けきれない状況でした。交通機関にも大きな乱れが出て、多くのご家庭でご苦労されたと思います。それでも子ども達は佐賀でめったに見ることのできない雪には心躍るものがあるらしく、せっせと雪だるまを作る風景はととても微笑ましく思えました。昨今地球温暖化の影響で、異常気象が数多くみられるようです。大雨、台風を昨年も経験しました。そのたびに、「これまで経験したことのない」という形容詞が使われます。今回の大雪も北陸や北海道での大雪の状況がメディアに取り上げられるのを見ると何かとんでもないことになりはしないかと不安になるばかりでした。幸いなことに、佐賀県では、特に大きな被害も無く安堵しました。



元々、自然は時として、猛威を振るうことがあります。しかし人間の手では、どうすることもできずにそれに順応して対処するほかありません。人間も生物ですので自然と賢く付き合っていかなければならないと思います。今回のような大雪に出会った時、科学技術の発達により、多くの情報が分かるようになりました。このことにより、リスクを予測しどのように備えるべきかを考え、行動することが大切です。私自身も今回の大雪を経験したことで、そのことを実感させられました。

また、今回の大雪で、一面真っ白な白銀の世界も見ることができました。四季のある国ならではの風景です。それを見て美しいと別の視点で物事を見ることができるようになることも大切です。時として、ピンチをチャンスに変えるヒントになるかもしれません。